

平成25年度事業報告書

平成25年(2013年)4月1日～平成26年(2014年)3月31日

はじめに

本年1月30日をもって、当財団は内閣府より公益認定を受けることが出来た。

5年にわたる公益法人制度改革で公益認定を受けた特例民法法人は9,054。24,317あった「旧公益法人」の44%に絞り込まれている。11,682は税優遇のない一般法人へ移行し、残る3,581は、解散・合併等で消滅している。これが公益法人制度改革の5年間の移行期間満了の結果である。

このような公益法人の再整理の結果、新法人は寄付への税優遇は受けやすくなったわけである。一方、わが国経済は暗く長いデフレのトンネルから抜け出す端緒をようやく見出しつつある。法人企業の決算報告を見ても、業界による厚薄はあっても経常収支に好況感が垣間見える。内閣府の狙いの一つである寄付文化の育成が進む可能性が大きくなった状況の中で、今後、当財団の大学院大学設立のための資金調達を如何に進めていくかが大きな課題となってくる。

一方で、求められる課題もより重いものとなっている。すなわち、より広い公益性とより厳しいガバナンスの改善である。いずれにせよ、今度の改革では旧主務官庁がなくなり、内閣府或いは都道府県に管理が一元化され、当該法人の主体性と力量が強ク問われることになる。このようなことから、当財団においても一層の意識改革と活動力が代表理事は当然のこと、全役員に求められることとなる。

当財団の2013年度の活動はこの公益認定をはじめ「財団運営資金」が地元の方々から初期目標を超える額を寄せられたこと、賛助会員組織もほぼ目標水準に到達したことなどの成果を上げることが出来た。しかしこれは当財団の事業目的から見ればようやくスタートラインに立ったというべきものであり、実際、ファンドレイジングは試行錯誤の連続で、経常収支を賄う『一般寄附金』は目標額を上回ったものの、『大学院設立資金』については目標額の1%にとどまった。

皆さんの更なる積極的な活動と尚一層のご協力をお願いする次第である。

以下2013年度の事業と決算の報告を提案する。

I 当財団の公益事業について

1 事業の概要

当財団の行う事業は、定款第4条に基づき、以下の2つに大別される。

(1) 知床自然大学院大学設立準備事業(第4条第1項)

知床自然大学院大学の設立・設置・誘致の準備活動を行う事業である。具体的には、平成29年4月開学を目途に、目指すべき大学院像を明確にし、その骨格である「ワイルドライフマネジメント」に関する学問体系を整理し、カリキュラム、教員計画、設備要件などの諸条件の調査・検討を行い、具体的な準備計画を策定するものである。また、計画策定と平行して、開学に向けた誘致を含む設立準備作業を行う。

大学院計画の検討と策定は当財団が設置する大学院大学計画策定専門委員会が行い、実行計画は理事会において策定し、準備活動は役員、顧問、相談役や事務

局において遂行する。また、野生生物保護管理に関連した団体や機関、有識者との交流・意見交換を行い、専門委員会の計画策定の一助とする。検討・準備状況は支援者・賛同者や一般に対して、ホームページや会報を通じて適宜公表する。

(2) 普及啓発・広報事業及び調査研究事業(定款第4条第2項)

ワイルドライフマネジメント(野生生物保護管理)に関わる専門家や研究者を育成することの重要性を訴え、またその立地として人と野生生物との共生の様々なノウハウが蓄積された知床がふさわしいことを、地元知床、北海道のみならず日本全国において説明会、講演会、シンポジウム等のイベント、パンフレット、会報誌やホームページ、マスコミに対するプレスリリース活動などを通じて、広く世の中に訴えていく事業である。合わせて、賛助会員や寄附金の募集活動を行うものである。

(3) 事業の概況

当財団は、上記の2つを中心に事業を展開し、知床自然大学院大学の設立実現を目指している。平成25年度の事業の実施概況は以下の通りであり、詳細は「2 各事業の実施状況」に記載した。

- ①知床自然大学院大学計画策定専門委員会を発足させ、第1回の会合を持った。
 - ②文部科学省や学術関連団体等の訪問を行い、当財団の活動や自然大学院大学設立への理解や協力を求め、専門的なアドバイスを受けた。
 - ③斜里町、東京都内で普及啓発イベントや説明会を開催した。
 - ④理事、評議員、顧問、専門委員会等のネットワークを通じて、地元知床エリアを中心に当財団の広報活動及び寄附金、賛助会員の募集を行った。その結果、一般寄附金は目標を達成し、賛助会員が100名を超えた
 - ⑤会報誌「財団ニュースレター」第1号、第2号発行した。
 - ⑦ホームページ、フェイスブック等のネットで広報事業を展開した。
 - ⑧内閣府に公益認定申請を行い2014年1月30日に認定された。
- なお、各事業・活動の詳細は以下の通り。

2 各事業の実施状況

(1) 知床自然大学院大学設立準備事業

1) 大学院計画策定専門委員会の発足と第1回会議

大学院計画策定のための専門委員会の発足に関する準備業務は中川業務執行理事が中心となって以下の通り行った。

- ①～8月:専門委員会の議論開始のたたき台としての大学院計画の骨子検討と関連資料・情報収集、専門委員候補者リストの作成、関係研究者へ当財団の資料送付(中川)
- ②8月21日:専門委員会設置に関する打合せ(網走:田中、中川)
- ③8月23日:専門委員会設置に関する打合せ(札幌:梶、中川、大泰司顧問)
- ④9月5日大学院計画の骨子案、専門委員候補等に関する協議(事務局:田中、中川)

- ⑤～10月：専門委員候補の絞り込み、役割分担等の検討（中川、田中）
- ⑥～11月：専門委員候補の確定と連絡・面談・就任要請（中川、田中）
- ⑦11月17日：第2回理事会にて専門委員会の委員を選任決議
- ⑧～12月：第1回専門委員会、委員日程調整及び開催案内（中川、事務局）
- ⑨1月：専門委員会準備、検討資料作成、議案送付（中川、事務局）
- ⑩1月24日：第1回専門委員会開催

< 第1回専門委員会の実施概要と主な協議事項 >

会場：かでの2・7（札幌市）

時間：14時～16時30分

参加者：専門委員8名、オブザーバー2名、事務局2名

主な協議事項

- ・委員長・副委員長の選任
- ・構想の検討経過と設立財団について
- ・計画策定の進め方
- ・計画案の構成と内容について
- ・基本コンセプトについて
- ・計画策定のための調査活動について

2) 文部科学省訪問

大学院大学の設立準備作業を着実に進めるため、文部科学省を訪問した。

- ①文科省訪問に向けて説明資料の作成（中川）
- ②10月30日：文部科学省大学設置室（今泉室長ほか）を訪問。当財団の設立経緯や現在の活動の状況、現状での大学院計画素案を説明。室長からは大学設置審査の概況や今後クリアすべき課題を含めた有意義なアドバイスをいただいた。（田中、中川、上野及び渡辺顧問）
- ③後日、今泉室長よりメールにて追加の意見やコメントをいただいた。

3) 環境省訪問

10月30日：野生生物の保護管理行政を担う環境省自然環境局（星野局長ほか）を訪問。当財団の設立経緯や現状を説明し、今後の協力を求めた。

4) 自治体への働きかけ

- ①8月9日：北海道庁山谷副知事、竹谷環境生活部長を訪問し、当財団の設立経緯や現況。大学院設立計画について説明、協力を求めた。（田中、上野、齋藤理事、上野、午来評議員、渡辺顧問）
- ②12月17日：「鳥獣保護及び狩猟の適正化に関する答申（環境省）」へパブリックコメント送付（中川、鈴木）
- ③12月6日：「北海道エゾシカ対策条例素案」へのパブリックコメント送付（中川、鈴木）
- ④1月15日：第6次斜里町総合計画案へパブリックコメント送付（田中代表理事）

- ⑤1月20日:馬場斜里町長に上野評議員が状況報告(観光協会新年会にて)
- ⑥2月23日:馬場斜里町長へ公益認定の報告と懇談(ゆめホール知床、田中、午来・上野評議員)
- ⑦3月5日:羅臼町教育委員会の石川教育委員長と意見交換(午来・上野評議員)
- ⑧3月19日:斜里町議会総合計画審査特別委員会の参考人として出席(田中・上野評議員)
- ⑨適時:羅臼町教育委員会へ当財団の進捗状況報告(金澤)

5) 関連団体・機関、有識者等への訪問及び意見交換

- ①4月18日:レスコム北海道代表曾野知男氏と自然大学構想とアメリカの事例など意見交換(札幌:中川、上野)
- ②4月23日:平成25年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰式に出席。田中環境副大臣、伊藤自然環境局長、星野大臣官房審議官、他の受賞者と懇談(新宿御苑:中川)
- ③6月18日:名寄市立大学家村昭矩教授、黄京性准教授が事務局訪問。大学院計画を説明し意見交換(事務局:中川)。
- ④6月1日:考古学同好会(宇田川洋東大名誉教授主宰)の懇親会で大学構想紹介(札幌:上野)
- ⑤7月17日:国立科学博物館林館長を訪問・懇談(東京:上野、鈴木、渡辺顧問)
- ⑥7月30日:知床世界自然遺産地域科学委員会出席・関係者と打合せ(斜里:中川)
- ⑦9月14～16日:日本鳥学会大会にて、研究者へのPRと意見交換(名古屋:中川)
- ⑧11月20日:北海道21世紀総合研究所檜森社長を訪問。進捗説明(札幌:家村、上野)
- ⑨11月28日～12月1日:「野生生物と社会学会」出席、ポスター発表。保護管理現場での専門家教育に関する意見交換(兵庫県:中川)
- ⑩2月27日:北海道生協連の前川専務と意見交換(札幌:上野)
- ⑪2月27日:知床世界遺産科学委員会出席、当財団の活動を説明(札幌:中川)
- ⑫3月4日:国立科学博物館林館長と懇談(東京:梶)
- ⑬3月13日:日本ユネスコ協会連盟寺尾事務局次長を訪問、懇談(東京:上野)
- ⑭3月14日:東京北海道ふるさと連合会三宅理事と意見交換(東京:家村)
- ⑮3月18日:知床山考舎滝澤代表と意見交換(斜里:中川)

(2) 普及啓発・広報事業及び調査研究事業

1) 講演会「～知床の未来を語る夕べ～知床に高等教育機関を作ろう」の開催

<開催概要>

日時:5月23日(木) 19時～21時

会場:ゆめホール知床(斜里町)

広報:チラシを斜里町内一円に配布(新聞折込)

講師:田中俊次代表理事、中川元業務執行理事、午来昌評議員、上野洋司評議

員

参加者数:50名

実施状況・成果について

斜里町における大学設立構想から知床自然大学院大学設立構想に至る歴史的経緯や、斜里町における自然保護事業や人材育成の重要性を説明し、当財団が目指す自然との共生のプロ育成の必要性を、直接、地元斜里町民に伝えられた。また、経営者、会社員、主婦、マスコミ関係者など幅広い層から参加者を得ることが出来、その模様は北海道新聞で大きく報道された。また、当日の様子を設立財団ニュースレター1号に記事を掲載した。

※なお、「斜里町内関係者関係団体名簿」を作成し、斜里在住理事、評議員を中心に、町内有志を訪問し、当財団のPRや活動状況説明を適時行った。

2)「ワイルドライフマネジメントプレフォーラム 野生生物の反乱を食い止める」の開催

<開催概要>

日時:3月8日(土) 13時~16時 (懇親会を16時半~18時に開催)

会場:聖アンデレ教会聖堂(東京都港区芝公園)

広報:ホームページ、フェイスブック、ニュースメールなどのネット利用の他、チラシ2000部を東京都内の環境教育関連施設や環境NGOなどに設置、朝日新聞夕刊環境面にも告知記事が掲載された。

講師:梶光一理事、中川元業務執行理事、渡辺綱男顧問、横山真弓兵庫県立大学准教授、横山隆一日本自然保護協会常勤理事、(司会:鈴木幸夫理事)

参加者数:90名

実施状況・成果:首都圏在住者のほか岩手県、群馬県、長野県、滋賀県など広いエリアから、一般市民のほか学生、研究者、自治体関係者、団体関係者、マスメディア等を含む幅広い層からの参加者を得ることができた。内容は野生生物保護管理における現代のトップランナーを講師陣としたこともあって、わかりやすかつ高度な講演会となり、参加者の満足度も高いものとなった。また、事前PR活動として家村・鈴木が中心となり以下の環境関連団体等を訪問、当財団の説明やPR協力要請などを行うことによって、首都圏でのネットワークの構築の第一歩ともなった。

- ・(公財)日本自然保護協会
- ・(公財)日本野鳥の会
- ・野学校
- ・地球環境パートナーシッププラザ(青山)
- ・丸の内さえずり館(丸の内)
- ・エコプラザ品川(大井町)
- ・目黒区エコプラザ(目黒)
- ・新宿区エコプラザ(新宿中央公園)
- ・(公社)日本環境教育フォーラム(新宿)

- ・港区エコプラザ(浜松町)
- ・(公財)東京都公園協会緑の図書館(日比谷公園)

3) 地域や団体等における説明会、講演会等の広報・普及啓発事業

- ①5月19日: 午来昌氏が弘前市斜里町友好記念碑建立時行われた記念講演で知床自然大学構想を紹介、パンフレット配布。(弘前市、参加者約200名)
- ②7月8日: 日本野鳥の会やWWFなど自然保護に携わる有志が自主的に開催している「野学校」(講演会:品川区)において、自然大学院構想を紹介。参加者約70名(鈴木)
- ③7月31日: 斜里町第一漁協の組合員会議にお邪魔し、自然大学院構想の説明を行い、当財団への支援を訴えた。参加者約50名(田中、上野理事、午来、上野評議員)
- ④札幌と東京の斜里会で上野評議員があいさつの中で知床自然大学構想を紹介しパンフレットを配布した。
10月12日: 札幌、参加者約80名。10月26日: 東京、参加者約100名。
- ⑤10月29日: JA斜里役員会で知床自然大学構想を説明しパンフレットを配布した。参加者約50名(田中、午来、上野評議員)
- ⑥2月5日: 斜里ロータリークラブ例会で設立財団の活動について講演。参加者約30名(中川)
- ⑦2月15日: 紋別市主催「第29回北方圏国際シンポジウム」にて大学院構想紹介。パンフレット配布。参加者50名(上野評議員、午来評議員)

4) ホームページ、フェイスブック等ネットによる情報発信事業

ホームページの完成は計画より遅れ完全公開が10月となった。構築、更新は無償のボランティアにより行われている。1月の公益認定後に改修を行ったがまだ完全ではなく、月次更新体制を早期構築、コンテンツの充実という課題が残った。

公式フェイスブックによる情報発信は16本。当財団の情報発信以外にも、知床に関連した話題の提供等を含めて、多様な内容になるように心がけた。3月末日現在の公式ページに対する「いいね！」は210でまだ僅少ではあるが、リーチ数は着実に増えている。投稿頻度アップやファン層の拡大に関しては課題を残した。

5) 会報誌「設立財団ニュース」の発行

当事業年度は計画通り会報誌を2回発行し、賛助会員や関係者、関係機関等に送付するとともに、ホームページにPDF版を掲載している。

①第1号

発行日: 11月10日付

部数: 700部

主な内容:

- ・「設立財団ニューズレターの発行にあたって」(田中俊次)
- ・インタビュー「当財団設立者 午来昌」

- ・「知床と私」(丹保憲仁相談役)
- ・知床コラム「知床の秋」(中川元)
- ・「テントウムシの思い出……野生との共存」(金澤裕司)
- ・「賛助会員加入のお願いについて」(家村充尋)
- ・活動報告、理事会報告

②第2号

発行日:3月25日付

部数:700部

主な内容:

- ・「野生生物の反乱を食い止める」を開催しました(抄録、事務局)
- ・「知床からの出発」(渡辺綱男顧問)
- ・「辻井達一先生の思い出」(齋藤卓也)
- ・インタビュー「当財団設立者 上野洋司」
- ・知床コラム「早春の知床」(中川元)
- ・「公益法人認定までの道のりと今後」(鈴木幸夫)
- ・「第1回専門委員会について」
- ・活動報告、理事会報告

6)パンフレットの作成と配布

「一般財団法人知床自然大学院大学設立財団 賛助会員のお誘い」パンフレットを発行した。(4/18 1000部)(第2刷 6/3 2000部)配布は役員・評議員・顧問等が中心となって行った。また、自然保護関連団体や環境情報施設にも配布を依頼し、賛助会員の拡大につながっている。当事業年度にパンフレット設置に協力いただいた施設、団体等は以下の通り。

- ・地球環境パートナーシッププラザ(東京・青山)
- ・(公財)日本野鳥の会本部(東京・五反田)
- ・丸の内さえずり館(東京・丸の内)
- ・銀座美経(東京・銀座)
- ・秀岳荘(札幌)

7)マスコミ等への情報発信、取材対応、掲載、放映等

- ①8月5日:北海道新聞社村田社長を訪問。進捗状況を説明(上野評議員、齋藤、上野理事)
- ②12月4日:北海道新聞社北見支社守谷支社長を訪問(上野)
- ③同上:北海道新聞取材対応(事務局、中川)
- ④12月6日:北海道新聞朝刊にニュースレター創刊の記事が掲載される(中川)
- ⑤1月23日:NHKラジオ深夜便「エゾシカは森の幸」で大泰司顧問が自然大学構想を紹介
- ⑥1月24日:NHK北見支局への情報提供と専門委員会の取材
- ⑦1月30日:公益認定に関するプレスリリースを各メディアに送付

- ⑧1月31日:TBSラジオ「荻上チキSession『ニッポンの狩猟文化を考える!』」に出演した梶理事が自然大学構想を紹介
- ⑨1月31日:北海道新聞社編集局久田編集委員を訪問。設立運動の概要を説明(上野)
- ⑩2月3日:北海道新聞社取材対応(事務局:中川)
- ⑪日本野鳥の会オホーツク支部報(1月号)に設立財団紹介記事を投稿(中川)
- ⑫2月20日:北海道新聞朝刊に公益認定と活動に関する記事が掲載される(中川)
- ⑬3月5日:朝日新聞全国版夕刊に「野生生物の反乱を食い止める」の紹介記事が掲載される(鈴木)

8) 調査研究事業

今年度は、基礎的な資料収集として各都道府県の「鳥獣保護事業計画」の最新版の収集と「特定鳥獣保護管理計画」の資料収集を行った。また「鳥獣保護事業計画」から各都道府県の専門要員配置状況等のデータを抽出する作業を進めた。今年度はこれらローデータ収集に終わり、調査研究の段階には達していない。

今後、このデータの欠落部分を補う作業を行うと同時に、ヒアリング等によるデータ補完の作業を行う必要がある。また、野生生物保護管理に関する既存文献の調査と収集(学会誌、単行本、ネット公開論文等)を行った。

II 理事会及び役員等に関する報告

1 理事会

平成25年度第1回理事会

開催日時:2013年5月26日(日)午後1時より

開催場所:斜里町ゆめホール知床会議室2

<決議事項>

第1号議案 「2012年度(平成24年度)事業報告書」承認の件

第2号議案 「2012年度(平成24年度)決算報告書」承認の件

第3号議案 「役員等の報酬等の支払に関する規程」承認の件

第4号議案 公益財団法人の認定申請に関する件

第5号議案 第2回評議員会(定時評議員会)招集及びその議案について

第6号議案 「評議員会運営規則」承認の件

以上、原案通り可決した。

<報告事項>

- ・賛助会員の加入及び募金に関する報告
- ・その他の業務執行報告
- ・当財団に関する新聞報道の報告

<検討事項>

- ・当法人の英語表記について

平成25年度第2回理事会

開催日時:2013年11月17日(日)午後1時より

開催場所:「道の駅しゃり」コミュニティーホール

<決議事項>

第1号議案 「知床自然大学院大学計画策定専門委員」の選任の件
以上、原案通り可決した。

<報告事項>

- ・課題の上期進捗状況
- ・当財団の9月末日時点の財務状況報告
- ・公益申請の経過報告
- ・文部科学省訪問報告
- ・「専門職大学院制度の概要」(資料報告)

<検討事項>

- ・今後の行程について
- ・賛助会員の拡大について

平成25年度第3回理事会

開催日時:2014年3月23日(日)午後1時より

開催場所:斜里町ゆめホール知床会議室2

<決議事項>

第1号議案 「平成26年度(2014年度)事業計画(案)」承認の件

第2号議案 「平成26年度(2014年度)収支予算(案)」承認の件
(資金調達および設備投資の見込みを含む)

第3号議案 「寄附金等取扱規則(案)」承認の件

第4号議案 「賛助会員規程改正(案)」承認の件

第5号議案 当財団のプライバシーポリシー制定の件

第6号議案 平成26年度第1回評議員会(臨時評議員会)招集の件

第7号議案 新理事候補者の評議員会への推薦の件

以上、原案通り可決した。

<報告事項>

- ・公益認定の経過報告
- ・「第1回大学計画策定専門委員会」報告
- ・「ワイルドライフマネジメントプレフォーラム」開催報告
- ・募金活動等の報告
- ・その他の業務執行報告

1-2 役員等に関する事項※2014年(平成26年)3月31日現在

<役員>

役職	氏名	就任年月日	担当職務	略歴
理事	田中俊次	2013年1月22日	代表理事	東京農業大学教授
理事	中川 元	2013年1月22日	業務執行理事	元知床博物館館長
理事	上野雅樹	2013年1月22日	業務執行理事	知床ユネスコ協会事務局長
理事	家村充尋	2013年1月22日		知床ユネスコ協会会員
理事	梶 光一	2013年1月22日		東京農工大学教授 日本哺乳類学会理事長
理事	金澤裕司	2013年1月22日		羅臼町教育委員会自然環境教育主幹
理事	齋藤卓也	2013年1月22日		公益財団法人北海道環境財団評議員
理事	鈴木幸夫	2013年1月22日		会社員 日本聖公会東京教区監事
理事	吉野英治	2013年1月22日		知床観光興業代表取締役
監事	木村耕一郎	2013年1月22日		斜里町議会議長
監事	廣川昭廣	2013年1月22日		税理士

※役員報酬を支給している常勤役員はいないが、当法人の事業・業務に関する必要な経費を、本人からの申請に基づき支給している。

※全ての役員は非常勤である。

<顧問及び相談役>

役職	氏名	就任年月日	略歴
顧問	大泰司紀之	2013年1月22日	知床世界自然遺産地域科学委員会委員長 北海道大学名誉教授
顧問	松浦晃一郎	2013年1月22日	公益財団法人日仏会館理事長 前ユネスコ事務局長(第8代)
顧問	渡辺綱男	2013年1月22日	自然環境研究センター上席研究員 国連大学シニアプログラムコーディネーター 前環境省自然環境局長
相談役	丹保憲仁	2013年1月22日	北海道立総合研究機構理事長 北海道大学名誉教授(第15代総長)

※理事会の諮問に応じて当法人の事業・業務に対して指導・助言などのご支援をいただいている

※報酬は支給していないが、理事会から委任された当法人の事業・業務に関する必要な経費を支給する場合がある。

2 評議員会

平成25年度第1回評議員会(臨時)

開催日時:2013年5月26日(日)午後3時より

開催場所:斜里町ゆめホール知床会議室2

<決議事項>

第1号議案 「評議員会運営規則」承認の件

第2号議案 「役員等の報酬等の支払に関する規程」承認の件

第3号議案 公益財団法人の認定申請に関する件

以上、原案通り可決した。

<報告事項>

・賛助会員の加入及び募金に関する報告

・その他の業務執行報告

・当財団に関する新聞報道の報告

<検討事項>

・当法人の英語表記について

※なお、同日午後1時から開催された第1回理事会に5名の評議員が出席、平成24年度事業報告書及び付属明細書「平成24年度決算報告書」の審議・質疑応答に加わっていただいた。

平成25年度第2回評議員会(定時)

開催日時:2013年6月18日送付:(決議の省略による)

<決議事項:2013年6月24日決議>

第1号議案 「平成24年度事業報告書及び附属明細書」の承認について

第2号議案 「平成24年度決算報告書」の承認について

以上、原案通り可決した。

平成25年度第3回評議員会

開催日時:2013年12月3日送付:(決議の省略による)

<決議事項:2013年12月9日決議>

第1号議案 「定款変更の案」の停止条件付承認決議について

第2号議案 「役員等の報酬等の支払に関する規程」の改正決議について

以上、原案通り可決した。

2-2 評議員に関する事項※2014年(平成26年)3月31日現在

<評議員>

役職	氏名	就任年月日	略歴
評議員	石 弘之	2013年1月22日	環境問題研究者

評議員	上野洋司	2013年1月22日	知床斜里町観光協会会長
評議員	午来 昌	2013年1月22日	元斜里町長
評議員	鈴木眞吾	2013年1月22日	元斜里町教育委員長 知床ユネスコ協会会長
評議員	土橋利文	2013年1月22日	斜里町商工会会長
評議員	深山和彦	2013年1月22日	ウトロ漁業協同組合代表理事組合長

※報酬を支給している評議員はないが、当法人の事業・業務に関する必要な経費を、本人からの申請に基づき支給している。

Ⅲ 法人の運営状況について

1 事務局の状況

非常勤の事務局長1名(理事)と、常勤の事務局員1名による運営体制を継続した。また、必要に応じて業務執行理事及び代表理事が事務局における決裁業務を分担職掌しているほか、会計処理や決算においては理事2名が在宅で事務局をサポートしている。公益事業の本格展開に伴い関連業務が増加しており、業務執行理事1名の常勤化を検討している。

2 公益認定について

公益認定申請は、首都圏在住理事2名が中心となり、内閣府公益認定等委員会への事前相談2回(8月1日、9月10日)を経て、10月12日に公益認定申請書を電子提出した。その後、委員会事務局担当者の指導による修正作業を経て、1月24日に委員会から内閣総理大臣にあてた公益認定答申、そして1月30日に内閣総理大臣から公益認定の交付を受けた。

なお、申請に伴い臨時評議員会(12月9日、決議の省略による)にて、「定款」「役員等の報酬等の支給に関する規程」を変更した。

3 ファンドレイジングの状況(賛助会員と寄附金について)

	種別	予算(件数)	予算(金額)	実績(件数)	実績(金額)
賛助会員	個人	100	500,000	92	460,000
	団体	0	0	4	40,000
	法人	20	2,000,000	8	800,000
	小計	---	2,500,000	---	1,300,000
寄附金	一般	---	7,000,000	52	7,309,816
	合計	---	9,500,000	---	8,609,816
大学院設立資金	目標額	---	5,000,000	---	50,000

(金額単位:円)

賛助会員は、個人はほぼ目標見合いとなったものの、法人は半数に届かず苦戦した。団体は当初目標に入れていなかったが、4件の会員加入をいただいた。この結果、賛助関係収入は目標の52%にとどまった。

寄附金については、設立して間もない財団の認知度が低い条件下、今年度は一般寄附金をまず集めることを中心課題として公益事業費と運営費を賄うために700万円を目標に募集活動を行い、大学院設立資金(指定正味財産の部、特定資産＝大学院設立資金)は500万円を目標に掲げた。一般寄附金(管理費指定の寄附金81,796円を含む)は目標を超えることができたが、大学設立資金への寄附金は目標の1%にとどまった。

4 決算概況(経常収支)

収入は、上記の他わずかながら基本財産運用益と普通預金利子があり、経常収入計は8,611,063円となった。一方支出は公益事業費、管理費支出ともに節約に努めたこと、事業実施に際して現物寄附、労力の無償提供、交通費等の自弁など様々な形での支援を受けたこと、一部事業を実施しなかったことや経費をほとんどかけずに実施した事業もあったため、予算の6割程度である公益事業費3,144,002円、管理費1,688,721円の計4,832,723円にとどめた。

このため、公益事業会計、法人会計ともに黒字となったものの、収支相償を満たさない結果となってしまった。その結果、剰余金の予算以上の発生により遊休財産の保有制限も超過状態となった。資産規模が小さいという事情はあるものの、平成26年度はさらなる公益事業の拡大に努めなければならない。

<附属明細書の作成について>

平成25年度(2013年度)事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成していない。

以上